



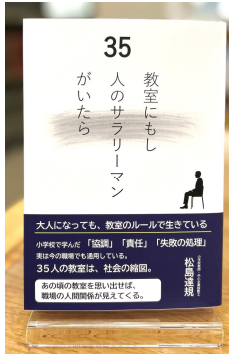
議会図書室からのお知らせ

☑ 本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。出版社での紹介がないものは貼っていません。

今月の新着図書
R8年7月（一般用）

『教室にもし35人のサラリーマンがいたら』

松島 達規【著】/アメージング出版 (2026/3)



「職場の問題」は教室で起きている事と似ている！
教師であり中小企業診断士でもある著者が、組織のモチベーションの生み方、衝突を成長に変える組織作り、人間関係の再構築まで、職場を教室に例えて解説。

『金利』

～すぐに使えるビジネス教養』

井堀 利宏【監修】/フォレスト出版 (2026/4)

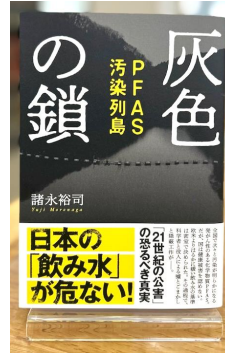


「金利」は経済ニュースの中だけの話ではない。
私達は意識せず金利の影響を受けて生活しているにも関わらず、あまり学習する機会がない。
金利初学者の方にも、わかりやすく教える1冊。

『灰色の鎖』

～PFAS汚染列島』

諸永 裕司【著】/文藝春秋 (2026/3)



日本の「飲み水」が危ない？
全国で発覚する化学物質「PFAS」による水への高濃度汚染。目に見えないPFAS汚染を前に、私達は何ができるのだろうか？
作られた「安全神話」の間に迫る、渾身のルポルタージュ。

『移民1000万人時代』

～2040年の日本の姿』

毛受 敏浩【著】/朝日新聞出版 (2026/1)

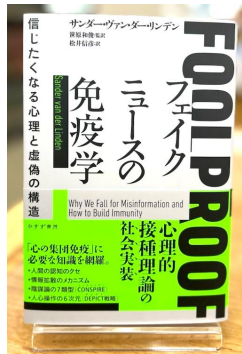


年間100万人単位で人口が減る一方で、既に395万もの外国人が住む日本社会。
社会的な生活基盤が人手不足で行き詰まっても、外国人受け入れへの抵抗感は未だ強い。
日本の人口問題に正面から向き合い提言。

『フェイクニュースの免疫学』

～信じたくなる心理と虚偽の構造』

サンダー＝ヴァン＝ダー＝リンデン【著】 笹原和俊【監訳】
松井信彦【訳】/みすず書房 (2026/3)

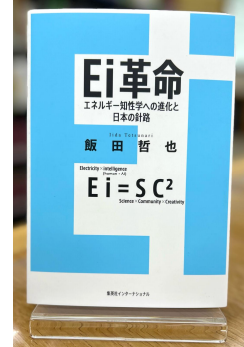


出所不明のフェイクがリアルな被害につながってしまう現代。
本書では、誤情報拡散の順序を明らかにし、誤情報への心理的免疫力の高め方を、「人の認知の仕組み」から解説。
SNS全盛の時代必携の「心のワクチン」学。

『Ei革命』

～エネルギー知性学への進化と日本の針路』

飯田 哲也【著】/集英社 (2026/1)



日本は化石燃料依存から脱却し、「電気を賢く作り・貯め・使う設計」へ移行すべきだと語る。
そのカギとなるのが「Ei＝電気×知性」。世界の動きに合った、企業・自治体・生活者が取るべき実装ステップを提示する。

『デジタルインフラと北海道』

～DXで耕す北の未来』

北海道ニュートピアデータセンター研究会【著】
北海道新聞社 (2025/10)



情報通信ネットワークやデータセンター事業の最先端を知る9人が、「日本のデジタルインフラの現状と未来」をレポート。
北海道の一次産業を軸とした地域戦略や、ワット・ビット連携、デジタル北海道の針路――北のデジタルロールに挑戦して

『地域プロモーションの思考』

～行政を斜めから見ると地域がわかる』

河井 孝仁【編著】/彩流社 (2026/4)



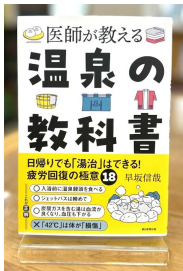
地域は「人口」ではなく「想いと動き」で好転する！
地域プロモーションのイメージ変革を構想する著者が、アイドル・官僚・漫画家・Z世代・自治体職員から、「まちに生きる人々の幸せ」を築く具体的発想を引き出す。

▶「温泉文化」に関する書籍

新着

『医師が教える温泉の教科書 ～日帰りでも「湯治」はできる！ 疲労回復の極意18』

早坂 信哉【著】/朝日新聞出版 (2025/8)

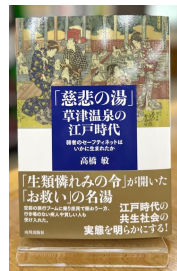


多忙なビジネスパーソンが温泉で効果的にリフレッシュするには？最新研究でわかった「日帰り・1泊」で効率的に疲労回復する湯治の極意を、温泉療法専門医が解説。温泉宿での理想的な過ごし方も紹介！

新着

『「慈悲の湯」草津温泉の江戸時代 ～弱者のセーフティネットはいかに 生まれたか』

高橋 敏【著】/山川出版社 (2026/4)



「草津千軒江戸構え」と謳われるほど、湯宿が競い合い、賑わいを見せた草津温泉。その一方で、貧しい病人が命がけて目指す「お救いの湯」でもあったという。誰もが癒やされた「江戸時代のセーフティネット」を明らかにする。

新着

『現代は温泉である ～治療文化の総合的研究』

川上 隆志・鈴木 健郎 他【編著】/専修大学出版局 (2026/3)



心身を癒す「温泉」の治療文化を、山岳信仰、戦争・震災の治療の伝承など様々な視点から考察。「温泉と差別」の章では、草津温泉・ハンセン病・被差別部落の歴史についても触れられている。

新着

『現代湯治のススメ ～全国泉質別温泉ガイド』

(一社)日本温泉科学会【監修】/淡交社 (2026/3)

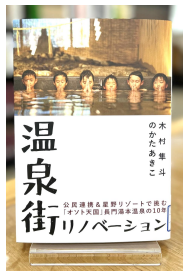


泉質で選ぶ、新しい温泉の楽しみ方を紹介！全国の温泉から、10の泉質別に121泉を紹介。掲載温泉のマップや療養泉リスト、温泉研究者によるコラムも収録。温泉の魅力をもっと深く味わえる1冊。



『温泉街リノベーション ～公民連携&星野リゾートで挑む 「オソト天国」長門湯本温泉の10年』

木村 隼斗・のかた あきこ【著】/旅行読売出版社 (2025/12)



老舗旅館の破綻をきっかけに、市は公費で「旅館一軒を救う」のではなく「温泉街をまるごと再生する」という大胆な方針を掲げた。行政・地銀・地域・地元旅館が協力して取り組んだ「令和の温泉街再生モデル」の記録。

『温泉旅行の近現代』

高柳 友彦【著】/吉川弘文館 (2023/11)



温泉旅行は、今のような身近なレジャーとしてどのように定着したのか？旅行形態やコスト、交通・情報インフラなどの変遷を追い、その中での温泉地の対応にも言及。江戸から現代までの温泉旅行を通史的に描く。

『ビジネス教養としての温泉』

松田 忠徳【監修】/日本能率協会マネジメントセンター (2025/6)



ビジネスパーソンが知っておくと便利な「温泉についての教養」を取り上げる書。日本古来の温泉文化や歴史的エピソードから、地域戦略としての温泉地づくり、「温泉+ワーケーション」などの情報も学べる。

『下呂温泉価値創出プロジェクト ～旅行者を惹きつける観光改革』

瀧 康洋【著】/幻冬舎 (2025/9)



平凡な温泉地から「選ばれる温泉地」へ！観光客の減少に苦しむ下呂温泉の大型旅館が仕掛けた、「温泉地全体の観光再興戦略」とは？観光客が何度も足を運びたくなる温泉の秘訣を明かす。